

## ▼テモダールカプセル [内], ▼テモダール点滴静注用 [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】 テモゾロミド (U) Temozolomide 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [アルキル化剤]

【単位】 ▼20mg・▼100mg/Cap, ▼100mg/V

【常用量】 ■初発：75mg/m<sup>2</sup>/日 ■再発：150mg/m<sup>2</sup>/日

【用法】 1日1回 [空腹時投与がよい] (radiation と併用, 休薬期間あり, 詳細は添付文書参照)

【透析患者への投与方法】 不明 (1) 透析例での使用報告がない (U)

【その他の報告】 6歳の透析中の小児への適用症例 (Armstrong AE, *Pediatr Blood Cancer* 61: 949-50, 2014 PMID: 24273036)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 全身 CL と Ccr との間に関連性はないが慎重投与 (1) Ccr 36mL/min 未満の症例での使用報告がない (U)

Ccr 36 未満の例でも減量は不要と思われるが血球のモニターを厳重に行う (Garzio K, et al: *J Neurooncol* 2022 PMID: 36001203)

【特徴】 悪性神経膠腫に用いられる。放射線療法単独に比べ予後の延長が認められている (StuppR, et al: *N Engl J Med* 352: 987, 2005)。イミダゾテトラジン誘導体のプロドラッグ。加水分解されて活性体の MTIC に変換される。

【主な副作用・毒性】 SJS, TEN, 骨髄抑制, 悪心嘔吐, 感染症, 脳出血, B 型肝炎ウイルスの再活性化など

【安全性に関する情報】 B 型肝炎, PCP への対策が必要 (1)

【モニターすべき項目】 CBC, ダカルバジンへの過敏症 (代謝されて MTIC を生成するため) (U)

【吸収】 食後投与時には空腹時投与時に比べ Cmax が約 32%, AUC が約 9% 低下する (1) 【Ka】 3.0/hr (1) 酸性では安定で, 中性～塩基性では加水分解されるものの, 胃全摘患者でも経口投与により AUC は同等であった (坂田徳子, 他: *医療薬学* 47: 380-386, 2021)

【F】 100% (1,U)

【tmax】 1～1.5hr (1) 1hr (U)

【代謝】 代謝物 MTIC の AUC は未変化体の 2% (1) 代謝物から産生する分解産物が DNA をアルキル化すると考えられている (1) 非酵素的に加水分解され, MTIC とテモゾロミド酸になり, MTIC はさらに加水分解されて AIC になり, アルキル化活性を発揮する (U) MTIC の産生に CYP はほとんど関与しない (U)

【排泄】 腎排泄 (1) 投与量の 38% が尿中排泄で糞便中には 0.8% であるが, 総排泄率に占める割合は尿中 98%, 糞便中 2% となる (1) 7 日間で 38.7% が尿中に回収され, 5.6% が未変化体, 12% が AIC, 2.3% がアシッド体, 17% がその他の代謝物 (U)

【CL/F】 2.27～2.37mL/min/kg (1)

【t1/2】 未変化体: 約 2hr (1) 1.8hr (U)

【蛋白結合率】 12～16% (1) 15% (U)

【Vd】 みかめの Vd 0.395～0.415L/kg (1) 0.4L/kg (U)

【MW】 194.15

【透析性】 除去されやすい特性を有している (5)

【O/W 係数】 20.8～22.4 [オクタノール/水系, pH7] (1)

【更新日】 20221229

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。